

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200072		
法人名	九州メディカル・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム安心 なかばる		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字原古賀190番地3		
自己評価作成日	平成27年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年3月4日	外部評価確定日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域密着型サービス事業所として「地域の方と共に暮らす支援」の実施を心がけている。運営推進会議には毎回区長や民生委員の参加があり地域の情報や活動状況の検討が行われている。事業所独自の自立支援活動の実施にも職員全員で取り組み、利用者一人一人の残存機能の活用しながら生きがいを持って過ごすことができるよう支援を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>同法人のグループホームが4事業所ある。それぞれの管理者が集まる会議も定期的開催され、そこから生まれるアイデアや工夫は法人全体へと広げられている。例えば、日々の記録簿を片面A3程の見開きファイルにし、サービス計画書やモニタリング、個人記録が一目で分かるように綴じてある。各々の簿冊を開く手間が省け、尚且つ他事業所へ応援に行く機会があるとしても戸惑うこともない。食事を専門業者に依頼しているため、入居者と関わる時間が増えている。合理的な根拠のもと、理念にある「思いやり」「優しさ」「あたたかさ」を実践している。入居者にとって日常の動作が残存能力の維持へと繋がることを意識し、過度な介助を控える支援をしている。床のモップ掛けや玄関先の花壇の世話も、手伝ってくれる入居者には任せている。そして、個々の希望に沿えるのは職員同士がお互いを信頼し、チームプレーが出来ているためである。</p>
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価/ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、事務室・フロアに掲示。スタッフで毎朝朝礼時に復唱して実践している。	事業所独自の理念を作り、事務室・フロアに掲示。スタッフで毎朝朝礼時に復唱して実践している。	開所時からずっと法人で統一された理念を掲げていたが、3年程前、現在の理念に変更されている。大筋では法人のものを引き継ぎながら、事業所独自の想いと職員達が作り上げたものである。分かりやすい言葉で具体的に表されているため、馴染みやすく身近な指針となっている。入居者との接し方や穏やかな声掛けに、それが活かされているのが伺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には、地域の方が声をかけて下さり顔なじみの関係ができています。また地区の行事参加し、交流ができています。	散歩時には、地域の方が声をかけて下さり顔なじみの関係ができています。また地区の行事参加し、交流ができています。	自治会に加入し、地域の清掃活動にも積極的に参加している。事業所の情報を回覧板で伝えたり、近所の畑で採れた野菜が届くこともある。介護に携わるプロとして、地域住民が持つ高齢化への不安や疑問点などにも応えられるよう門戸は常に開けている。運営推進会議も活用しながら、事業所としてどんな貢献が出来るか模索中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談があれば支援の方法等アドバイスをを行っている。	地域の方から相談があれば支援の方法等アドバイスをを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し施設の取り組み状況や活動を報告を行っている。事業所に対するご意見・ご要望があれば改善するよう努めている。	二ヶ月に一度開催し施設の取り組み状況や活動を報告を行っている。事業所に対するご意見・ご要望があれば改善するよう努めている。	運営推進会議には全ての家族に連絡を可能な限り出席をお願いしている。会議時間は1時間程であるため、事業所からの報告のみに終始しないよう努めている。メンバーからの情報でボランティアの訪問を依頼したり、コンサートへ出掛けたりし、入居者には憩いのひとときもなっている。限られた時間ではあるが、外部の人の目が入る貴重な機会であることを踏まえ活かそうと努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議やネットワーク会議などへ積極的に参加を行うなど積極的に連絡を取っており、良好な関係を保つようにしている。	地域ケア会議やネットワーク会議などへ積極的に参加を行うなど積極的に連絡を取っており、良好な関係を保つようにしている。	運営推進会議のメンバーであり、市町村が主導する会議へも積極的に参加しているため、日頃から顔なじみである。市町村職員から要介護者を抱える家族の見学や相談事の対応を依頼されることもある。事業所として出来る事は真摯に取り組む、また、市町村職員とも実直に対応してもらえる関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通し、身体拘束を行わないケアの実践に取り組む。ただし、利用者様の生命に危険が生じる場合などは御家族様に説明し、同意を得て行う場合もある。	勉強会を通し、身体拘束を行わないケアの実践に取り組む。ただし、利用者様の生命に危険が生じる場合などは御家族様に説明し、同意を得て行う場合もある。	事業所では月1回の勉強会を設け、法人全体として行う研修の中にこれをテーマに取り上げる場合もある。職員は、身体拘束の内容とその弊害を理解しており、入居者の行動を抑えることもない。玄関に施錠はなく、チャイムやセンサーの設置もしておらず、職員の見守りによって安全な暮らしが支援されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して高齢者虐待防止について学び実施している。アンケートの実施やストレスマネジメントにも取り組んでいる。	勉強会を通して高齢者虐待防止について学び実施している。アンケートの実施やストレスマネジメントにも取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する知識を身に付け、必要に応じて制度を活用できる様支援を行っている。	権利擁護に関する知識を身に付け、必要に応じて制度を活用できる様支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約・改定等の際は説明を十分に行い理解が得られるよう努めている。	契約時及び解約・改定等の際は説明を十分に行い理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者様・御家族様の意見を聴取し、希望に添えるよう努めている。意見箱も設置している。	運営推進会議では利用者様・御家族様の意見を聴取し、希望に添えるよう努めている。意見箱も設置している。	家族からの意見や要望は、事業の質の向上へと繋がる。その想いが家族の来所時には何でも話してもらえるような姿勢であり、また、言い難い事があれば法人宛へ匿名でも構わない旨を伝えている。来所が少ない家族へは、電話で入居者の様子を伝えているが、その際にも耳を傾けている。事業所の外に苦情や相談窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のカンファレンス時に意見や改善案を聞く機会を設け反映できる様努めている。	月に一度のカンファレンス時に意見や改善案を聞く機会を設け反映できる様努めている。	毎月1回、2ユニット合同のスタッフ会議がある。出来るだけ非番者の出席も促し、業務改善や行事について話し合う事をメインにしている。活発に意見を出し、限られた時間内で有意義な会議となるよう工夫もある。例えば、提案のある職員は要点をまとめておく事、個々の意見を要領よく集約するために案件の事前提示などである。管理者は、日々のケアは個人プレーではなくチームプレーであるとの考えから、若い職員への声掛け等にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対して定期的な面談を行うと共に評価の実施をおこなう。働きやすい環境整備についても職員と協議しながら行っている。	職員に対して定期的な面談を行うと共に評価の実施をおこなう。働きやすい環境整備についても職員と協議しながら行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修の開催及び外部研修の参加を促し向上心を持って働くことができる環境整備を行っている。	法人内部研修の開催及び外部研修の参加を促し向上心を持って働くことができる環境整備を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われているネットワーク会議に参加し、交流を深め事例検討会等を通して質の向上に努めている。	地域で行われているネットワーク会議に参加し、交流を深め事例検討会等を通して質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には、事前に施設を見学して頂き、支援が必要な場面や要望等について聴取し安心してサービスを利用していただけるよう説明を行っている。	入居希望者には、事前に施設を見学して頂き、支援が必要な場面や要望等について聴取し安心してサービスを利用していただけるよう説明を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族には契約内容やサービス内容等説明を行い、不安・要望等が無いが確認を行い関係づくりに努めている。	御家族には契約内容やサービス内容等説明を行い、不安・要望等が無いが確認を行い関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内でサービスを完結させず必要であれば他サービスを利用しながら本人及び家族が必要とするサービスが提供できる様支援を行っている。	ホーム内でサービスを完結させず必要であれば他サービスを利用しながら本人及び家族が必要とするサービスが提供できる様支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの関係を大切にし、職員も共に暮らす家庭的な環境を心がけている。	お互いの関係を大切にし、職員も共に暮らす家庭的な環境を心がけている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や催し物を開き、御家族様を招待し交流を深め、情報交換を行っている。	行事や催し物を開き、御家族様を招待し交流を深め、情報交換を行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、近所の方も面会あり。希望があれば電話の支援も行っている。	友人や知人、近所の方も面会あり。希望があれば電話の支援も行っている。			入居時に利用者のそれまでの人間関係等を把握し、関係が継続できるよう努めている。把握のためには、担当ケアマネージャーや、利用していた事業所等からも話を聞くことがある。日頃の電話取次ぎはもちろんのこと、新年の前には年賀状を書いたり、返事を手伝うこともある。留守にしていた自宅へ郵便物を取りに戻る入居者もあり、職員は当然の事として支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士の関係性を強めていくことで利用者が孤立せず、安心した生活が送れるよう支援している。	職員が間に入り利用者同士の関係性を強めていくことで利用者が孤立せず、安心した生活が送れるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や転居後でも必要に応じ相談に乗れるよう努め、利用者がより良い生活を送る事ができるよう支援を行っている。	退去や転居後でも必要に応じ相談に乗れるよう努め、利用者がより良い生活を送る事ができるよう支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3ヶ月に1回一人ひとりに希望を確認し、暮らしやすく希望に添った生活が送れるよう支援している。	3ヶ月に2回一人ひとりに希望を確認し、暮らしやすく希望に添った生活が送れるよう支援している。	サービス担当者会議を3ヵ月毎に行っているため、その際にはより深く想いを確認している。また、日常の関わりの中で入居者が想いを話してくれることもあり、普段から心掛けていることも多い。例えば、午後におやつを食べながらリラックスしている時、職員も一緒にゆったりと過ごす中で想いが聞けることもある。それらは個別記録に残され、申し送り時に周知され共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、御家族様の希望に出来るだけ沿ったサービスが提供出来るように努めている。	本人様、御家族様の希望に出来るだけ沿ったサービスが提供出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの現状、状況を記録に残し、把握できるように努めている。	利用者一人ひとりの現状、状況を記録に残し、把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議では本人様、御家族様、職員が意見やアイデアを出し合い、よいケアが出来るよう努めている。	サービス担当者会議では本人様、御家族様、職員が意見やアイデアを出し合い、よいケアが出来るよう努めている。	日頃の関わりの中で、入居者や家族の意見、希望を把握するよう努め、計画に反映させている。事業所には独自の自立支援活動というのがあり、それは、過度の介助を行わない事、残存能力を活かしていく事などである。入居者にとって最適なプランが組めるよう、職員は意見を出し合っている。本来、見直しは3ヵ月毎ではあるが、変化があればその都度、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で、気付いた点などがあれば、個人記録に残し介護計画に活用している。	日々のケアの中で、気付いた点などがあれば、個人記録に残し介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの活用などより良い生活を送る事ができるよう既存のサービスに捉われないことなくサービスの多機能化に取り組んでいる。	外部サービスの活用などより良い生活を送る事ができるよう既存のサービスに捉われないことなくサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館やスーパーの利用等地域の資源を活用して暮らすことができるように支援している。	図書館やスーパーの利用等地域の資源を活用して暮らすことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医がある場合は、出来る限り継続できるよう支援している。また、法人内に連携病院もあるため、連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医がある場合は、出来る限り継続できるよう支援している。また、法人内に連携病院もあるため、連携を図っている。	約2割が入居前からのかかりつけ医である。協力医への変更は、入居者や家族からの希望、または、よく説明を行った後の判断を尊重している。受診には、家族が付き添う場合も職員が必ず同行し、医師に日常の様子を伝えたりしている。馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があればすぐに担当医師、訪問看護師に報告し、適切な受診や看護が受けられるよう努めている。	異常があればすぐに担当医師、訪問看護師に報告し、適切な受診や看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関との情報交換を行い、状況を把握して。また、病院側からの相談を受けることもあり普段から関係づくりを行っている。	協力医療機関との情報交換を行い、状況を把握して。また、病院側からの相談を受けることもあり普段から関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時本人様、御家族様の希望を聞き、主治医、訪問看護、職員が連携し本人が望む形での支援ができるよう努めている。	入居時本人様、御家族様の希望を聞き、主治医、訪問看護、職員が連携し本人が望む形での支援ができるよう努めている。	これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意はある。重篤期の指針があり、入居時に説明も行っている。しかし、容態の変化に伴い、本人や家族の気持ちも揺れ動くことから、その都度、何度でも話し合いを重ね、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修会での訓練参加やマニュアル整備を行うことで事故発生時に実践できるよう努めている。	外部研修会での訓練参加やマニュアル整備を行うことで事故発生時に実践できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防火チェックや年2回の防火訓練を行い予防に努める。夜間想定訓練では地域住民の参加を依頼し開催している。	毎月の防火チェックや年3回の防火訓練を行い予防に努める。夜間想定訓練では地域住民の参加を依頼し開催している。	年2回、近隣住民の参加も得て、昼間帯での避難訓練を行っている。消防署や防災関連会社のアドバイスを受けながら、入居者も一緒に避難を体験している。職員は、消火器や火災通報装置の使い方も承知しており、一次避難場所も家族には伝えてある。また、寒さを凌げる物は用意があるが、非常食や水の備蓄については法人全体で検討中である。訓練の記録がきちんと残されており、反省点や気付きは改善へと繋がるため、速やかに職員にも周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は丁寧な言葉かけを心掛け、カンファレンス等にて再確認を行っている。	職員は丁寧な言葉かけを心掛け、カンファレンス等にて再確認を行っている。	自ら作り上げた理念に「尊重」「敬意」とあるように、日々のケアの中でもそれが活かされているのが伺える。法人全体として行う研修の中には、接遇関係もあり、職員の意識は高い。年4回、四季ごとにホーム便りを発行したり、日常のスナップ写真がリビングに飾られているが、その掲載については入居時に承諾を得ている。また、個人情報についても、責任ある取り扱いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様の話聞き、希望に沿えるよう心掛けている。	日頃より利用者様の話聞き、希望に沿えるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調に合わせて、本人の意見も聞き、生きがいのある楽しい1日を過ごして頂けるよう努めている。	利用者様の体調に合わせて、本人の意見も聞き、生きがいのある楽しい2日を過ごして頂けるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて訪問美容の方に来て頂き、カット・カラー・パーマをご利用いただける。	希望に応じて訪問美容の方に来て頂き、カット・カラー・パーマをご利用いただける。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事用のエプロンなどの準備や下膳など、出来る範囲を一緒に行っている。一日のメニューをホワイトボードに記入し、その日の献立がわかるようにしている。	食事用のエプロンなどの準備や下膳など、出来る範囲を一緒に行っている。一日のメニューをホワイトボードに記入し、その日の献立がわかるようにしている。	食事は、同法人全体が一括して専門業者に委託している。そこで考えられた献立は、栄養価も計られ調理済みの食事が希望の形状で配送されて来る。専門業者を利用することのメリットは、衛生管理と職員の業務軽減である。入居者に食べたい物を尋ね、時にはレストランを利用することもある。野菜などの差し入れがあれば、献立外で一品増えたりもする。また、誕生日は出来るだけ当日に祝い、家族の来所で賑わうこともある。食事風景は和やかで、職員は出来るだけ一緒に食べるよう心掛けている。準備や片付けも、入居者の出来る事で動けるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあった食事の形状にて提供できるよう支援している。栄養のバランスが把握できるようにしている。	一人ひとりの状態にあった食事の形状にて提供できるよう支援している。栄養のバランスが把握できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその人にあった口腔ケアを行っている。必要時には訪問歯科の利用し、口腔内の確認を行っていただいている。	毎食後にその人にあった口腔ケアを行っている。必要時には訪問歯科の利用し、口腔内の確認を行っていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄を記録し、日中はオムツを使用しない工夫を検討し、トイレにて排泄が行えるよう支援を行っている。	一人ひとりの排泄を記録し、日中はオムツを使用しない工夫を検討し、トイレにて排泄が行えるよう支援を行っている。	排泄を記録することにより、本人のリズムを把握している。そこから時間をみて誘導し、トイレでの排泄が出来るよう支援している。自立した入居者も数名いるが、本人任せではなく、さりげない見守りを行っている。トイレでの排泄を促すことでオムツやリハビリパンツ使用が徐々に改善されるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄状況を記録し、出来るだけ薬に頼らず、水分補給や腹部マッサージ等行っている。	利用者の排泄状況を記録し、出来るだけ薬に頼らず、水分補給や腹部マッサージ等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望する時間帯を把握して計画を立てる。体調をみて入浴日を変更したり、その人に応じた入浴の支援を行っている。	利用者の希望する時間帯を把握して計画を立てる。体調をみて入浴日を変更したり、その人に応じた入浴の支援を行っている。	入居者が希望すれば、入浴回数やその時間帯も柔軟に対応出来る。入浴を拒む方には、タイミングをずらしたり職員を変えたりして試みる。難しい場合は、清拭や足浴でも対応している。浴室には、ゆったり湯船に浸かって欲しいとバスボードを置いている。そのボードは浴槽への出入り時の助けとなり、不安解消にもなっている。また、冬場の脱衣場は温度管理され、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、職員は羞恥心にも配慮しながら見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを大事にし、安心して睡眠が取れるように支援している。	利用者の生活リズムを大事にし、安心して睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報等については事務所で管理し、職員が確認できる体制を整備している。症状の変化があれば担当医へ連絡し相談を行っている。	薬剤情報等については事務所で管理し、職員が確認できる体制を整備している。症状の変化があれば担当医へ連絡し相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活を継続できるようにその人にあった支援を心がけ安心して過ごしていただけるよう努めている	今までの生活を継続できるようにその人にあった支援を心がけ安心して過ごしていただけるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の買い物や外出については希望に添って支援を行っている。遠方への外出や地域活動等には家族や地域の方の協力をいただき実施している。	近場の買い物や外出については希望に添って支援を行っている。遠方への外出や地域活動等には家族や地域の方の協力をいただき実施している。	天候や体調をみながら事業所周辺の散歩などを日常的に行っている。日差しを浴びる事は睡眠のリズムを整えるとの考えからである。日用品やおやつを買いに出掛けたり、読書好きの入居者とは、車椅子であっても、近くの図書館へ通うなど各々の要望に応じている。同法人施設にある大型の車椅子対応車両を借りられるため、年間行事には花見やドライブも計画され、楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は持たれている。外出の際には買い物等もされている。	自己管理が出来る方は持たれている。外出の際には買い物等もされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話できるよう支援している。	希望に応じて電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が季節をわかるように季節にあった飾り付けをしたり、花を生けたり、居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	利用者様が季節をわかるように季節にあった飾り付けをしたり、花を生けたり、居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	事業所に入り、まず目に付くのはリビング中央にある太い柱である。大人が両腕を回して測るほどの太さで、それが梁を支えているのが見えるように設えてある。それは自宅の大黒柱を思い出したり、大きな木の周りに集うかのようなデザインである。リビング南側には畳部分もあり、心地よい日差しで絶好のお昼寝スペースとなっている。四季を感じる物や絵画、入居者作の刺繍などが飾られ、落ち着いた雰囲気だまどめている。浴室やトイレ等もきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室、和室、フロアなど落ち着いて過ごせる場所が提供できる様環境整備に努めている。	個室、和室、フロアなど落ち着いて過ごせる場所が提供できる様環境整備に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってきていただき、利用者様にとって安心していただける環境を提供している。	使い慣れた家具などを持ってきていただき、利用者様にとって安心していただける環境を提供している。	居室に持ち込む品物に、火気等の危険物以外の制限はない。使い慣れた馴染みの品物をと伝え、安心して過ごせるよう支援している。入居者ごとに担当職員を決め、衣替えや居室内の飾りにも配慮している。事業所は出来るだけ多くの写真を撮ってあげたいとして、日々の何気ない一枚も大切に飾られている。来所した家族には、普段の表情が見えると好評である。居室の掃除は職員が行うが、入居者も出来る事を手伝っている。また、家族が希望すれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの性格、特徴を活かし、自立した生活が送れるよう支援している。使い慣れた家具などを持ってきていただき、利用者様にとって安心していただける環境を提供している。	一人ひとりの性格、特徴を活かし、自立した生活が送れるよう支援している。使い慣れた家具などを持ってきていただき、利用者様にとって安心していただける環境を提供している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		○	1. ほぼ全ての利用者の
		○		2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○		3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		○	1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない